

平成 2 5 年度外部評価議事録

議 事 概 要	
会議の名称	平成 2 5 年度行政評価（外部評価） ※長久手市コミュニティ活動事業費補助金事業
開催日時	平成 2 5 年 9 月 2 8 日（土）午前 9 時 1 5 分から午前 1 0 時 3 0 分まで
開催場所	福祉の家 2 階 集会室
出席者氏名	委員（会長） 和泉 潤 委員 中島 美幸 委員 杉山 知子 委員 小川 辰男 委員 杉本 孝司 委員 太田 孝夫 委員 中村佐仔子 委員 佐藤 長男 担当課 暮らし文化部長 布川 一重 暮らし文化部次長 高嶋 隆明 たつせがある課長 吉田 弘美 たつせがある課主幹 川本 保則 たつせがある課主任専門員 粕谷 庸介 事務局 行政経営部長 松井 豊明 行政経営部次長 三浦 肇 経営管理課長 高木 昭信 経営管理課課長補佐 飯島 淳 経営管理課経営管理係長 門前 健 経営管理課主事 小野田裕穂
傍聴者人数	1 7 人
会議の公開・非公開	公開
審議の概要	長久手市コミュニティ活動事業費補助金事業について
問 合 先	長久手市行政経営部経営管理課 0 5 6 1 - 5 6 - 0 6 0 0
備 考	

担当課 委員	<平成 2 5 年度長久手市行政評価（外部評価）資料に沿って説明> 地区によって自治会加入率がちがう。西小校区が 42%、他は 60 何%。西小は自治会費がゼロなのか。それでこの率はどうなのか。ま
-----------	---

担当課

た、転勤族が多いとか特有の理由があるのか。

西小校区の特色として転勤世帯や単身アパート世帯が多い。自治会費は徴収している。

委員

行政評価票にある西部地域は疲弊しているという言葉は、自治会の加入率だけをもって言うのは違和感がある。

西部地域は活気あふれる地域である。これは行政用語として使っているのか。

また、1年間でこの事業の所管部署が変わった経緯は何か。

担当課

疲弊という言葉は行政用語ではない。また、地域全体、自治会がということではない。活発に活動していると思っている。

委員

もう少し適切な表現があると思う。

担当課

適切な言葉にしたい。

所管については、市民協働課から自治会を所管する部署が変わったものである。

委員

自治会の役員の選ばれ方はどのようなか。事業の選択とか備品の購入とかに地域の人の声はどれだけ反映されているのか。

風通しのいい組織であるか、いかに民主的なかを行政はどう把握しているのか。

担当課

役員の選出は、地域の実情により選出されている。

地域の声については、幅広い世代の要望がそれぞれ集約されていると理解している。

委員

長久手ではないが、自分の住む地域のまつりで青少年の行動に問題があったときに自治会に言っても何も対応してもらえなかった。

実情は中に入らないと分からない。なかには地域の声が届かなかつたり、言えない状況があったりして、それは長久手でも起こりうることだ。

担当課

本市には自治会連合会と区があわせて9つある。それぞれ自主的に民主的に行われていると理解している。

本年度、課内に地域担当職員を配置した。これは地域と行政のパイプ役として、例えば、役員会に出席するなど地域と密接に関わり、以前より情報が入る仕組みになった。

地域のことは地域でという考えから、自治会連合会、シニアクラブ、

委員	<p>子ども会、民生委員等が連携することが地域活性化につながる。そういう意図から地域担当職員が配置され、地域共生ステーションが整備されている。</p> <p>役員会に出席と言うが役員会に上がっていかない意見をどうするかである。</p>
担当課	<p>役員会に出るだけでは駄目で、住民の声を拾えるシステムをつくっていかないといけない。</p> <p>自治会は任意団体だから手が出せないではなく、行政もいろんなかたちで対応して考えていかないといけない。</p> <p>本課では、地域担当職員の他に地域共生ステーションの第1号を11月にオープンする。これは地域の人に気楽に集まってもらうスペースをもつことで、地域の問題について協力して解決に進めていきたいと考えている。</p>
委員 担当課	<p>自治会の加入率はそれぞれどのようか。</p> <p>自治会連合会は、長湫地区北部が 65.8%、西小校区が 42.0%、市が洞地区が 59.7%、南小学校区が 48.4%、長湫地区長久手小学校区が 63.6%。また区では、岩作区が 63.7%、大草区が 73.9%、北熊区が 61.5%、前熊区が 65.7%である。</p>
委員	<p>行政評価票にある疲弊という言葉はただならぬ表現だ。何を基準に疲弊としているのか。</p> <p>地縁づくりが実ってきたかどうかは、どういう観点で評価しているか。</p>
担当課	<p>疲弊については、先程申し上げたように適切な言葉に改める。</p> <p>地縁づくりが実ってきたかについては、その表現がしづらいので自治会の加入率を成果指標とした。</p>
委員	<p>本市で組数が 25 組あるところで組長をしている。16 所帯あるが、3 所帯加入していない。</p> <p>1 件は引っ越してきて 1 年以上経つので話に行ったが、そういうのが煩わしいので長久手に引っ越してきた、自治会に入るのは御免被りたいと言われた。</p> <p>もう 1 件は、以前は加入していたが、なかなか意見が通じず幻滅したのでやめたとのことだった。</p>

担当課

もう1件は、他に家がありここで入る気はないとのことだった。
集会所の掃除などは6割くらいはやってくれるが、あとはやらなきやいけないのかと言われる。

行政は、例えば防災防犯は勝手にやりなさいという考えに感じる。
いったい地縁づくりというのはどういう観点で高めていきたいと考えているのか。

全部のことを市が担うことはできない。地域で取り組んだ方が効果的なこともある。

防犯では、例えば普段止まっていない車が止まっていて怪しい場合など、地域の目で見てもらうことにより抑止につながると思うし、防災では、地域のあそこの高齢者はどうしているかなと気遣ったり、地震があったときにはちゃんと逃げられたかなとか気にしたり、地域のことは地域が一番実情を分かっていることがある。

もちろん、市がやらなければいけないことはある。

絆、地縁づくりについては、それができないうちに市になってまちが大きくなった。これからはゼロからの気持ちでやる。

委員

長期計画ではなく、これからの3年、5年計画で、単に地縁組織を強化するという抽象論ではなく、どの部分とどの部分をというのをもってやって欲しい。

5万人の市で、2つの交番に7人の警官しかいない。市が洞地区には交番もない。何でも絆でやってくれではなく、やるべきことは行政でしっかりやって欲しい。

委員

成果指標では地域全部をまとめて自治会加入率としている。地域に分けて成果指標を設定すべきだ。その方が説明もしやすいと思う。

平成21年から、協働まちづくり事業活動助成事業が始まり5万円、10万円という額の補助金だ。それに比べて、このコミュニティ活動事業費補助金100万円とはどうすみ分けるのか。

行政評価票の決算の主な内訳の記載事項は、それぞれ具体的にどんな費用を充てたのか。

夏祭りや盆踊りなどは結構派手にやったところもある。これは地域活性化になっているのか。地域担当職員は、地域の多勢の声を聞いて優先順位を決めてやって欲しい。

担当課

成果指標を地域ごとに分けるのは検討する。

協働まちづくり事業活動助成金は、目的が地域の課題の解決のため、行政と役割分担する事業に助成するもので、平成 22 年度からコミュニティ活動について 5 万円、10 万円の助成を追加した。対象は自治会連合会、区、市民活動団体などである。この 2 つの制度の目的は同じなので一本化されることが望ましいが自治会連合会、区に対しては別立ての制度としている。

また、交流会、夏祭りをすることによって、地域のつながりを再認識できたり、新興住宅地では夏祭りなどによって絆づくりができていたりして、有効であったと把握している。

平成 25 年度予算では、一律 100 万円から自治会の規模に応じた補助金に改善した。

地域担当職員は、行政が縦割りにならないように間に入って整理をする。

委員

自治会はいまに毎年補助金をもらっている気がする。

協働まちづくり事業活動助成金は報告会をしているが、この事業はされていない。

担当課

補助金の使い方は、例えば、集会所で今まで低い机で床に座って使いつらかった備品の買い替えである。

報告会については、必要性は認識しているので今後そういう場を設ける。

委員

成果指標は地域ごとの加入率に改めるということでもいいか。

行政評価票の改善内容の記載が、補助金の上限の算出方法の改善だけになっている。担当課が今日言われた地域担当職員が役員会に出るなどのことが改善内容ではないか。

また、この補助事業は平成 24 年度に急にこういう事業がでたのか。経過はあるのか。

担当課

成果指標については先程申し上げたように検討する。

改善内容は地域の活性化につながるよう今後議論していく。

他市町を見るとその多くが地縁組織だけに対象を限定している。本市では、シニアクラブ、子ども会、NPO、市民活動団体、ボランティアなどの横のつながりのある組織に対して補助ができるように検討

委員	<p>したい。</p> <p>経過は、平成 22、23 年度は 1 事業につき満額 15 万円だったのを自治会連合会・区会に対して 100 万円とした。</p> <p>知り合いが長久手に 10 年くらい前から住んでいて、最近、長久手に住んで良かったか話を聞いた。すると、前から住んでいる人はいいが、よそから新しく来た人は疎外感があると言った。この人は単身でも転勤族でもない。</p>
担当課	<p>自治会に加入しない人の声をどう拾うのか。地域担当職員が役員会に出るだけでは分からない。</p> <p>貴重なご意見として伺う。</p>
委員	<p>地域の活性化と補助金算定変更はどう結びつくのか。</p>
担当課	<p>時間もあるので総括してお答えする。</p> <p>何故加入率を上げるのかというのは、地域には様々な問題があり、地域と行政が連携していかないと将来に禍根を残すことになるからである。</p> <p>顔の見える範囲でということで、地域共生ステーションをつくり、そこで、これから何をやるのかを連合会長、区長等と会合を重ねて問題を把握している。</p>
委員	<p>今後は地域の課題に対応する受け皿をつくりたい。</p> <p>自治会のトップは男性が多い。女性市民の声が届くような自治会運営を進めて欲しい。</p> <p>地域だけでは解決しないような問題に行政が対処できるようにして欲しい。</p> <p>例えば、岡山市では電子町内会というのがあり、双方向の新しいまちの活性化というのも視野に入れてやって欲しい。</p>
会長（総括）	<p>コミュニティ活動への助成金は重要であるが、自治会の規模に応じて助成への変更はあったが、緊張感を持って事業を行ってもらうためには、他の助成金と一体化した競争的なものにすることが必要と思われる。</p> <p>また、成果報告会なども考える必要がある。</p>